

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070402211
法人名	株式会社 ウキシロケアセンター
事業所名	グループホーム いこいの里 白銀
所在地	福岡県北九州市小倉北区白銀1丁目2-7 1F
自己評価作成日	平成26年10月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	平成26年10月29日	評価結果確定日	平成27年3月5日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム いこいの里 白銀は(株)ウキシロケアセンターの事業所の一つである。他にも住宅有料老人ホーム・介護付有料老人ホーム・グループホームなど運営し、現在では佐賀や北海道など全国展開をしている。今後迎えるであろう超高齢化社会に向けて実績・経験共に確立しつつある。  
当ホームの近隣には商店街や公園などあり、入居者様と共に、地域交流の一環として、施設周辺の清掃ボランティアを行なっている。また、30分ほど車で走れば海や山など自然環境にも触れることが出来、季節を肌で感じて頂けるよう努めている。認知症高齢者だからといって特別意識はせず私共が「気持ちいい」「安らぐ」と感じる事が出来るような空間や環境、心安らぐ時間を職員と共有出来るよう努めている。また健康面についても定期的に往診をすることで心身ともに健康維持出来、入居者様にとって不安のない生活を提供している。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人理念や信条を日々確認し、職員全員が意識して毎日のケアに繋がるよう努めている。また、「目指す介護」や「介護のあり方」等を具体的に示し、共有を図りながら全国展開を図る法人全体でサービスの向上に取り組んでいる。近隣には歴史ある商店街もあり、アーケードの中を歩きながら、昔ながらの店頭でのやり取りを通じた交流の機会もある。また、入居者個別のテーマソングがあり、日常的にリビングで流れていて「私の歌だ。」という表情がみられ口ずさみ、入居者と職員の一体感が生まれている。今回、法人のスケールメリットを活用し、法人全体のマンパワーを活かしながら取り組んだ「大運動会」を企画し、各事業所の職員で意見交換を重ね協力体制のもと、実施されている。利便性の高い街なかの生活環境を活かしながら、個別の暮らしの再構築に取り組んでいる事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当法人の事業所理念をいつでも確認出来るよう掲げている。職員一同、理念に添ったサービスを意識し提供している。	法人理念や信条を玄関、リビングに掲示し、毎日の朝礼で唱和し確認をしている。理念・信条に添ったサービス提供に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的に法人内の事業所行事や市民センターなどの行事には参加させて頂いている。その他、地域清掃ボランティアとして入居者様と共に施設周辺の清掃活動を実施している。	地域の小学校や市民センターの行事に参加して交流の機会を大切にしている。入居者の方々とともに地域清掃ボランティアとして活動したり、夜間パトロールに協力している。近隣の歴史ある市場や商店街を利用している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域内の商店街行事や市民センターの行事、その他市民センター主催で行なっている夜間パトロールに参加させて頂き、グループホームについて、認知症高齢者について地域にいこいの里 白銀の在り方を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は定期的に2ヶ月に一度開催している。参加者様からの貴重な意見を活用しサービス向上に生かしている。	定期的に家族、地域オンブズマン、地域包括支援センター職員、管理者が参加して、事業所の行事や現在取り組んでいる内容等報告し、質問や意見、要望を頂いている。意見を総合し、サービスの向上に活かしている。次回開催日には必ず経過報告が出来るよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃より市町村とは連携を密に取りより良いサービスが提供出来るよう助言・指導を受けている。	運営推進会議には、地域包括支援センター職員の出席を得ている。また、ケースワーカーとの情報共有を図っている。グループホーム協議会主催の「行政との意見交換会」に出席し、情報共有や意見交換に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	危険行為も見られる入居者様もいらっしゃるが、日中はスタッフが傍で寄り添い安心出来るよう努めている。また面会の少ないご家族様については電話で声を聞いて頂いている。夜間は防犯対策のため、やむを得ず玄関の施錠を行なっている。	運営推進会議の中で「身体拘束をしないケア」について話し合い確認している。個人のペースを優先し職員間でその日の状態を情報共有しながら見守り事故防止に取り組んでいる。また、夜間帯は防犯対策の為やむを得ず玄関の施錠を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修で高齢者虐待に限らず勉強会を行なっている。他者の目がない時ほど注意を払い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については現在利用されている方もおり、月に一回面会に来られている。必要時には相談を行ない、いつでもサポート出来るよう努めている。	入居時に、権利擁護に関する制度について説明している。現在、制度を活用している方もおり、後見人の方の定期訪問を通じて学ぶ場面も多い。資料を整備している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはサービス利用契約書・重要事項説明書等を用い一つ一つ確認を行ない説明している。同意を得た上で署名・捺印して頂いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やご家族様から提案された意見についてはミーティングや運営推進会議の議題として取り上げ必要時には検討し改善するなど運営に反映出来るよう努めている。	日常の来訪時や運営推進会議では、気軽に意見や要望を発言して頂ける雰囲気づくりに努めている。出された意見や要望は、運営推進会議やミーティングの議題として取り上げ、迅速な対応に努めている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所内で提案された意見を取り上げ管理者ミーティングなどで議題として取り上げている。職員の意見を出来るだけ反映出来るよう努めている。	法人内のマンパワーの活用や協力体制について、職員の提案を活かし、外出支援や行事等に活かされている。各事業所の意見を管理者ミーティング等にて検討し、フィードバックしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の能力を把握し意識や向上心を高められるよう努めている。給与水準・職場環境などあらゆる面から前向きに検討している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用については法人主体で行なっている。特に年齢や性別など制限はないが意識や向上心のある方を採用している。一人一人の職員の能力を最大限発揮出来るよう管理者として努めている。	職員採用については法人主体で実施している。職員の意向や特技、能力を活かせるよう法人内での異動も可能である。グループホーム協議会にも加入しており、他事業所の職員や管理者との交流の機会もあり、一人一人の職員のレベルアップにつなげている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	管理者ミーティングで意見交換を交わし、法人内の事業所の取り組みなど参考にしている。当事業所にも反映出来るよう取り組んでいる。	法人全体で、基本理念や詳細かつ具体的に示された職員心得等の浸透を図り、研修の機会を持つ等、職員の意識を高める取り組みを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修会のほか事業所内で行なわれる研修についても積極的に参加するよう努めている。業務の中でもその人の力量に応じた説明を行なうなど職員に対して配慮している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し出来る限り研修会等に参加するよう努めている。他の事業所との方との交流をもつことで意見交換や情報交換を行いサービスの質の向上に役立っている。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス計画書作成にあたり必ず御本人様の意向を確認している。コミュにケーションを図りながら少しずつではあるが打解けられるよう努めている。御本人様とのちょっとした会話や表情から不安な気持ちを汲み取れるよう努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス計画書作成にあたり本人だけでなく御家族様よりも意向を伺っている。これまで困っていたことや不安なこと既往歴などについても伺っている。面会時にはコミュニケーションを図り気軽に言えるような関係性作りに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス計画書作成にあたり御本人・御家族の意向をふまえる。又これまで他のサービスや医療機関を利用されていた方については情報提供して頂く。その時一番必要とするサービスを提供出来るよう努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症高齢者であっても私達の暮らしの中の日常的な生活者としてとらえている。一人の人間として出来る限り身の周りのことなど行って頂きながら今の生活を送って頂いている。これまでの生活習慣や過ごし方などお互いが尊重している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来る限り御家族様へ面会の依頼をしている。仕事など時間が取れない方であれば定期的に電話でお話しして頂くなど御本人様と御家族様の関係が途切れないよう努めている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出した際には馴染みの場所や思い出の場所に出掛けている。 馴染みの方については現在の状況を説明し、次回また面会に来て頂けるようお願いしている。	地域で開催される祭りや花火大会に出かけ、馴染みの場所や思い出の場所での出会いを大切に出来るよう心がけている。面会の来られた方々には次回も面会して頂けるよう働きかけを行っている。	充実に向けて取り組むアセスメントを活かし、馴染みの関係性の継続や、あらためて結び直す等、個別支援に結び付けていくことも期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	まず利用者様同士の関係性の把握に努める。意思の疎通が困難な方がおられる為、入居者同士が不快な思いをしないよう職員が介入している。共同作業の場などを提供しお互いが支え合う関係性作りに努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても可能な限り相談や支援が出来るような体制を整えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で入居者様がどういった希望や意向を考えているのか職員一人一人が把握に努めている。	「私の生活環境シート」等細かくチェックされており、入居者の思い出や意向に添える様、声かけや家族からの情報収集をしている。また、日常生活の行動や表情から真意を推し測れるよう、職員一人一人が常に意識している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	過去に利用されていた医療機関やサービス事業所から情報提供して頂き、これまでの経過を把握している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	これまでの生活歴や今出来る残存機能を生かしながらホームでの生活を送って頂くよう努めている。また、その日その時の心身の状態を考慮し一番適した対応を行なっている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人様・御家族様だけではなく、医療機関・サービス提供に関わる職員も含め意見交換をおこなっている。御本人様がより良い暮らしが出来る介護計画作りを行っている。	独自のアセスメント表とセンター方式の活用が職員相互で浸透されてきている。医療機関の情報を基にモニタリングの実施、職員会議で意見交換がされ計画に反映できるように取り組んでいる。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や異変があった時のことなど個別の記録に残し職員間で情報の共有をしている。また、その記録を元に介護計画作成にも生かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	季節を感じて頂けるようその季節に合った行事を開催し、ご家族様にも参加を呼びかけている。通院については御家族同行が原則であるが御家族様も時間が取れない・高齢者ということであれば施設での対応も行なっている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域交流として、近隣商店街より野菜の配達やお米の配達をして頂き、地域と共に助け合うよう努めている。市民センター行事や商店街へ買物に出かけ、社会との繋がりができるよう努めている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	職員立会いのもと、各入居者様の往診に月2回来て頂いている。定期的な往診以外にも急変があれば救急外来への受診も行っている。その都度、御家族様へは経過を報告し安心して過ごして頂けるよう努めている。	入居時にかかりつけ医については意向を確認している。緊急の受診については職員が対応しており、結果は確実に家族に報告している。協力医療機関による訪問診療も実施されており、訪問看護師から医療面のアドバイスや指導も受け、日常の健康管理や早期対応に結び付けている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制加算を算定しており、週1回看護師が訪問する事で、普段の入居者様の状態を把握できている。より主治医との連携も図り易く、医療的なアドバイスも受けられ職員の質の向上にも繋がっている。重度化が進む中、医療との連携を密に図り住み慣れた場所で安心して過ごせるよう取り組んでいる。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にはこれまでの既往歴や生活習慣・処方されているお薬など病院へ情報提供している。退院前にはカンファレンスを行い退院後のケアの注意点など病院側と綿密に話し合いの場をもっている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期のあり方については、事業所で出来ることを契約の段階で御本人様や御家族様に説明している。地域としては、病院、老人保健施設等連絡、連携を図り、地域で支え合いながら支援に取り組んでいる。	重度化した場合や終末期のあり方については、入居契約時に指針をもとに説明を行っている。法人全体で外部講師を招き研修を行った実績もあり、ミーティングで各事業所の情報を共有し、今後想定される対応について検討を行っている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	月1回の事業所間ミーティングの際には急変時の対応の学習をしている。 また、消防訓練時に心肺蘇生やAEDの使用方法についても実践し、急変時の対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練を行っており災害時の避難方法も確認している。また緊急時の連絡網についても作成している。地域の協力体制として、市民センターと連絡をとり協力を仰ぐ体制をとっている。	マニュアルを作成して、年2回、昼・夜間の災害を想定して入居者も参加して実施している。地域住民や自治会・市民センターにも案内して協力を呼びかけている。また、消防署に消火器の使い方や避難の方法等指導をして頂いている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人一人に対しその人の世界観や人格を尊重し対応している。またその日によって心身の状態に合わせプライバシーを傷つけないような声掛けにも職員全員が配慮している。	研修計画に位置付けて「接遇研修」のマニュアルも整備している。特に新人研修時は声かけや言葉づかい、守秘義務についても指導し、入居者の人格を尊重した対応ができるように職員全員で取り組んでいる。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自身の意思を表すことが出来ない入居者様もいる。理解力も低下しており選択肢が多くあると困難なこともあるため、答えやすい質問を行い、職員が説明しながら出来る限り御本人様に自己決定して頂けるよう支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居するまでの生活歴や趣味など御家族様などから情報提供して頂き、出来る限りこれまでと変わらない生活が送れるよう支援している。 職員や施設の都合に合わせてことなく御本人様のペースを大事にしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御本人様にその日着る服は選んで頂いている。また定期的に訪問美容に来て頂いており、希望者には御本人様の意思で利用してもらっている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物にドライブを兼ねて出掛けている。調理に関しては、衛生面に配慮しながら、簡単な作業を手伝って頂き、生活行為の出来る自信に繋がるよう支援している。	買出しは近隣の市場へ入居者も一緒に出かけ、食材を選んで頂く事もある。古くからの商店が数多く、なじみの商店主からの声かけがあり、和やかな時間である。季節感溢れる食材が並んでおり、入居者に食事への関心が引き出せるよう配慮している。調理担当者が配置され、職員が入居者に寄り添いながら力を発揮する場面を支援することができる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算はしていないものの肉・魚・野菜などバランスの良い食事を提供している。食事形態についてもその人にあったものを提供している。 水分補給を好まれない方には、こまめに声掛けし対応している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアは行っており歯ブラシ・歯間ブラシ・スポンジブラシなど使用し入居者様に応じたケアを行っている。定期的に訪問歯科診療を受け口腔ケアについて指導も行って頂いている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をもとに個人に合わせた排泄パターンを把握している。一日を通してトイレでの排泄を促している。	独自の排泄チェック表を作成し、一人ひとりのパターンの把握に努めている。日中は声かけし出来るだけトイレで排泄できるよう支援している。夜間帯はパット使用など、下着や排泄用品の使い分けをして個人にあった配慮で支援している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	当法人内での研修会で便秘について職員全体が把握出来ている。飲食物の工夫や水分摂取量についても注意しており適度な運動も行っている。 便秘が続く際は排便促進剤にて対応している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現在入浴日については施設の都合で確定していない。なるべくその人にあったタイミングで入浴の声掛けを行っている。浴槽に入る方・シャワー浴の方個々にあった対応をしている。	週2回のパターンで準備をしているが、希望があればシャワー浴を含め随時入浴できる体制がある。無理強いせず、気分転換の一環として「ゆず湯」や「しょうぶ湯」を取り入れ、楽しんで入浴して頂ける工夫をしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を把握しその時々状況に応じた休息を促している。衣類調整や室温調整を行い安眠出来るよう支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬について理解されている入居者様はいない。事業所側が薬の管理を行っており服薬時に一人ひとりに合った支援を行っている。薬の副作用も考慮し異常時には早期対応している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	これまでの生活歴や習慣を考慮し一人ひとりにあった支援を行っている。洗濯物を畳む・居室の掃除をして頂くなど何か役割を担って頂くよう努めている。定期的にドライブなども取り入れ気分転換している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の意向に添い、近くの商店街へ買い物やドライブに出掛けている。 一部の入居者様の御家族については外泊などして頂いており協力を得ている。	入居者の希望や体調に応じて外出の機会は増えてきている。商店街に買い物に出かけたり、地域で開催される「ほたるまつり」や「祇園祭り」には同法人内の事業所と連携をとり、協力して出かけている。また、今回事業所相互の協力で大運動会を計画し開催され職員も達成感に溢れていた。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事業所内で金銭管理している。 個人の必要物品については預かり金の中から購入している。 御家族様了承のもとわずかではあるがお金を自分で管理されている方もいる。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書くような支援は現在行ってはいない。字を書くことも出来ないため困難である。 電話については一部の入居者様は職員がかけることで話すことが出来ている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の生活の主体がリビングである為、その季節に行った行事の写真や花など飾っている。季節感を多く取り入れ五感に刺激を与え心地良い空間を提供している。	事業所の玄関を入ると、広々としたリビングが目の前に広がり開放的である。そのリビングに入居者が集まり其々の場で寛いでいる。オープンキッチンで調理する音や匂いが伝わり、家庭的な雰囲気を出している。時にはリビングが舞台となり、入居者の舞踊や歌が披露され、生き生きとした表情が見られた。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	建物の都合上、全体が見渡せるようになっている為、独りになれる場所はない。基本的には座る場所など決まってはいるものの自由に気の合う仲間と会話を出来るよう配慮している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際にはこれまで使っていた物をお持ち頂くようお願いしている。家具の配置などについては御本人様が落ち着いて過ごせるような空間をレイアウトされている。	入居時には、使い慣れた品物や家具を持ち込んで頂いており、意向に添った配置や動線の確保を心がけている。本人の手作りの作品や家族からの贈り物が壁やタンスの上に飾られ、心温まる空間になっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	今ある残存機能を生かしながら生活して頂いている。日常生活全体の見守り・声掛け・必要時には介助を行い安全確保に努めている。 現在の状態から維持・改善出来るようリハビリを兼ねた援助を行っている。		